申請者：高永才

論文題目：　複数市場に対応する製品開発−欧州GSM市場をめぐる日韓の携帯電話端末企業における競争の事例−

審査員　青島矢一
山本秀男
武石彰

本論文は、欧州の携帯電話端末市場（GSM市場）における日本企業（A社）と韓国三星電子の製品開発と市場戦略に関する比較分析を行い、両社の明暗を分けた理由を探るプロセスを通じて「製品の機能進化を牽引した企業が、異なる地域を含む複数の市場に対応した製品開発に苦慮するのはなぜか」という問いに答えることを目的としたものである。

携帯電話端末市場では、初期段階に世界の技術を牽引していた日本企業が、結果として国際市場で低迷するという現象が観察されている。同じような現象は他のエレクトロニクス産業でもみられるものである。これらの現象は、日本の産業の将来を展望する上で、考察に値する重要な現象なのだが、これまで必ずしも体系的な分析が行われてこなかった。それに対して、本論文は、日韓企業の詳細な比較分析を行うことによって、1つの説明論理を提示することに成功している。

本論文の貢献の1つは、日本のA社と三星電子の比較分析を行ったこと自体にある。A社も三星電子も国内市場では異なる通信規格を採用している。両社にとってGSM市場への進出は異なる規格への挑戦である。このように、同じ条件下にある2社を比較することによってはじめて、海外市場における日本企業の失敗の真の原因を特定することが可能となっている。

また、極めて詳細な事例分析を行っていることも特筆に値する。筆者はまず、携帯端末の技術的な内部構造を時代ごとに明らかにして、本産業を特徴づけるプラットフォームの変遷を明確に示している。その上で、A社と三星電子の製品展開を詳細に分析することによって、両社の設計思想の違いと対称的な製品開発方法を浮き彫りにしている。このこと自体、従来の研究にはない新たな貢献である。特に、一般的にも調査が難しいとされる三星電子に関する記述の価値が大きい。本論文の記述からは三星電子のグローバル戦略が垣間見られる。

さらに、本論文は日本企業が広く共有すべき問題を取り扱っており、日本の産業発展を考える上で重要な示唆を与えるものとなっている。

ただし若干の問題点が指摘できる。第1に説明の枠組みに多少の混乱がみられる。A社の問題は、国内におけるドコモとの取引関係からくる影響とA社のグローバル戦略の問題に分けて考察すべきであるが、本論文の枠組みでは、これら2つが混同されている。また、国内戦略が海外戦略に影響を与えるという結論の因果関係を特定する情報が十分であるとはいえない。

しかしながら、説明枠組みの問題は今後十分に改善可能なものである。また、因果関係を特定する情報の不足も、それによって本論文の貢献を大きく損なうものではない。これらの問題点については、今後の研究課題として取り組んでもらうことを筆者に期待したい。

よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。